

インフルエンザと薬



何かと話題のインフルエンザ。鳥インフルエンザは今すぐ人に感染するわけではありません。人から人に感染しはじめたときに感染拡大が起こると考えられています。インフルエンザの歴史を振り返り、抗インフルエンザ薬がなかった時代も含めて、現在の治療法をみてみましょう。

インフルエンザの歴史

インフルエンザには世界的に大流行するA型、ほどほどに流行するB型、症状が軽く、気にならない場合も多いC型の三種類があります。

よく、スペインかぜA型が世界最初のインフルエンザと思われるのですが、古くは紀元前四一二年にヒポクラテスがインフルエンザと思われるものを記録に残しています。日本では平安時代八六二年にそれらしい記述があり、室町時代の「増鏡」(ますかがみ)にもそれらしい記載があります。江戸時代にはおそらくA、B混在して二十三日もの流行があり、お駒風浄瑠璃(おこまかぜ)「谷風相撲」(お七風八百屋)「琉球風琉球人來朝」(なぐそ)の当時の話題や有名人の名前に「風」を付けて呼ばれていました。

世界的に大流行(パンデミック)した

インフルエンザA型には地名が冠されています。発生源・名前(発生地)を示すと、一九一八・スペイン風邪(北アメリカ)、一九五七・アジア風邪(中国本土)、香港?、一九六八・香港風邪(中国大陸)、一九七七・連風邪(中国北部)というふうには必ずしも発源地の名前がついているわけではなく、やはり時の話題(スペイン王室の風邪騒動の新聞報道など)や、最初の流行地の名前がつけられています。今般話題になっているインフルエンザもA型ですから、もし日本ならば「日本(東京)風邪」、小松左京の小説「復活の日」の「北京風邪」の名称が現実になる可能性もあるわけです。

従来のインフルエンザの治療

昔はインフルエンザにかかっても、発熱には解熱剤、鼻水には抗ヒスタミン

剤咳には咳止め、気管支炎とか肺炎といった合併症を起こした場合は抗生物質、というふうな主に対症療法で治療していました。表1

抗インフルエンザ薬の特徴

近年インフルエンザウイルスに作用して、増殖を抑える薬剤が開発されました。最近はこの薬剤と対症療法を組み合わせて治療が行われています。表2

シンメトレル(アマンタジン)はインフルエンザA型のみに作用する内服の薬剤で、錠剤のほか粉薬もあります。リレンザ(ザナミビル)はA型B型両方に作用する口から吸入する薬剤です。

シンメトレルは薬剤費は安いのですが中枢神経症状(特に眠れないなどの副作用や胃腸障害)が出る場合があります。

ます。リレンザはインフルエンザウイルスの標的臓器の気道に直接薬剤を散布する合理的な薬剤なのですが、吸入薬に抵抗のある人や使用に不安のある人には使えませんし、慢性的呼吸器疾患の患者さんへの使用には注意が必要です。一番薬剤費の高いタミフルはカプセルとドライシロップがあり、小児へも使いやすいようになっています。出やすい副作用は胃腸障害です。子供の死亡例が報告され新聞で報道されましたが、因果関係は証明されていません。注意は必要ですが、むやみに怖がることはないと思われま

す。リレンザはインフルエンザウイルスの標的臓器の気道に直接薬剤を散布する合理的な薬剤なのですが、吸入薬に抵抗のある人や使用に不安のある人には使えませんし、慢性的呼吸器疾患の患者さんへの使用には注意が必要です。一番薬剤費の高いタミフルはカプセルとドライシロップがあり、小児へも使いやすいようになっています。出やすい副作用は胃腸障害です。子供の死亡例が報告され新聞で報道されましたが、因果関係は証明されていません。注意は必要ですが、むやみに怖がることはないと思われま

服用時の注意

これら三種の薬剤は発熱後四十八時間以内に内服や使用を開始しないと、効果が期待できません。突然の高熱など、インフルエンザかなと思っ

なるべく早く受診することをお勧めします。

また、服用を開始して熱が下がり、症状が楽になったからといって勝手に服用を止めると、また繰り返したりします。抗インフルエンザ薬は体に異常が無い限りは飲み切る、使い切るようにしましょう。

(横手平鹿薬剤師会 近野 隆夫)

表1

症状	使用薬剤
発熱	解熱鎮痛消炎剤
鼻水	抗ヒスタミン剤
咳	鎮咳剤(咳止め)
合併症	抗生物質

表2

	シンメトレル	リレンザ	タミフル
抗インフルエンザ薬			
有効ウイルス	A	A, B	A, B
薬剤費	安	中	高
投与回数	1日1~2回	1日2回	1日2回
使用法	内服	吸入	内服
投与期間	7日	5日	5日
副作用等	中枢神経症状胃腸障害	呼吸器疾患に注意	胃腸障害

基準薬局リスト

横手市		
石田薬局	☎0182-32-0069	FAX32-9342
オレンジ薬局横手店	☎0182-36-3177	FAX36-3178
鍛冶町さいた薬局	☎0182-33-1751	FAX33-1752
くら薬局	☎0182-35-5630	FAX36-3678
小池調剤薬局	☎0182-33-0456	FAX33-0457
さいた薬局	☎0182-33-4814	FAX33-1273
齋太薬局駅前店	☎0182-33-6662	FAX33-6662
下田薬局	☎0182-32-0583	FAX32-0583
高橋薬局	☎0182-32-5189	FAX32-8965
たんば薬局	☎0182-35-5221	FAX35-5222
ネ/ヒ薬局	☎0182-32-2520	FAX32-2521
平鹿調剤薬局	☎0182-33-2272	FAX33-3164
やまさ薬局	☎0182-32-2739	FAX32-8934
横手南薬局	☎0182-32-2422	FAX33-6064
青山薬局	☎0182-42-4003	FAX42-0750
雄物川みよし薬局	☎0182-22-3434	FAX22-3435
にいはら薬局	☎0182-42-3505	FAX42-3512
橋本薬局	☎0182-22-4149	FAX56-2188
ヤナギ薬局	☎0182-22-3013	FAX22-4200
湯沢市		
うちだて調剤薬局	☎0183-78-0080	FAX78-0081
雄勝調剤薬局	☎0183-72-3210	FAX73-8436
小町堂薬局	☎0183-52-4264	FAX52-4782
つるだて薬局	☎0183-72-3813	FAX72-3814
ユザワ薬局	☎0183-73-3312	FAX72-0777
雄勝郡		
あべ薬局	☎0183-62-0089	FAX62-2603
健生堂薬局	☎0183-62-0117	FAX62-0118
静寿堂薬局	☎0183-62-0121	FAX62-0122



お薬手帳



基準薬局の看板

処方せん公文書の有効期限は処方日を含めて4日間です。

秋田県薬剤師会
秋田市千秋久保田町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail: info@akiyaku.or.jp
http://www.akiyaku.or.jp